

Dr. STONE ~技術と豪運の合わせ技~

ねこです。

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

全人類は石化した!!?

それから数千年後…

かつての日本にて

石から解放された青年。

彼は持てる知識、経験、そして並外れた技術と豪運によって石の世界：ストーンワールドを生き抜く!!?

1
話

目
次

1

1話

最初に目に飛び込んできたのは光だった。

突如として現れた眩しい光を前に僕は

目を瞑る……などが出来なかった。

見た瞬間、身体全身が石の様になり目の前が真っ暗になった。

ポケ○ンとかド○クエとかのゲームオーバーかと最初は思った。

だがいつまで経っても暗闇は晴れない。

腹も減らないし催したりもない。

只々暗闇に己の意識があった。

しかしそれも途絶えそうになったりした。

それが怖かった。

もし意識を途絶えたら、暗闇に飲み込まれたら。その時は本当に

ゲームオーバーなのではないかと。

私は暗闇を拒絶した。

意識を確立させる為にあらゆる事を試した。

その中でもっとも意識を保てたのは

素数を数える

これだった。

他にも10000引く7とかも試したが上限の無いものの方がいちいち区切らずに意識を保てた。

本来はどっかの神父の精神安定法だった筈だがとても使えた。

ま、素数を探す為に暗算をしている時間の方が多かったけど。

そして――

数千年後……

「……むっ」

体が…身体が動く！

「ぬりいやああ!!？」

外が……空が見える！

「あかるい…美しい!!？」

空気が美味うまいい！

「はっはははははは暗闇を脱した!!？」

笑いが止まら……ん？

「……これは…」

*

青年の目の前に広がったのは空の次に大自然であった。

そう、大自然。

覚えがある限りでは自分は日本でかつ都市圏に住んでいた。ここ

までの自然は都市開発で無くなっている筈だ。

(いつの間にか移動させられた…?)

青年はそんな考えをしたがそれはあるものによって掻き消された。

「……うそだろ…」

石像。それも沢山。さらには生活感溢れるものまで。

まるでいきなり石化した人間の様に青年は見えた。

「じゃあ…俺も…」

自身が先程までどうなっていたのかを簡単に想像できた。

それはあまりにもショックがデカく立ち直るには時間が必要……

「ま、目覚めたし、いつか」

…ではなかった様だ。

「だが文明がなくなっちゃまってこれからどうするか…まず住処、食料、道具。これが必要だな。火は直ぐに起こせるから問題無い。住処は洞穴か…建てるか。うーん、建てたいな、一から家を建てるのロマンだし。食いもんは最悪毒性の無い木の根を食えばいいから動物が欲

しいな。そして動物を捕まえるには道具。んー、打製石器直ぐ作れるかな？黒曜石落ちてたら便利なのだが……」

青年は今後のプランを考えながら突き進む。

この後立ち寄った川で黒曜石を見つけそれで簡素な槍を作り野生化したであろうウサギを仕留めその辺で取れたキノコ（無毒）とともに美味しく頂いた。

この青年、あまみ天海は将来

家を建て、野菜などを見つけ、田畑を耕し、炉を作り、金属器を精製し、一人で村と呼ばれる程のモノを一年以内に作り上げる。

これは全て彼に秘められた豪運と技術によるモノ。

この豪運チと技術トはどこまで行くのか……